

今月の谷口雅春先生のお言葉

あたたかい笑顔と讃嘆さんたんがわが子を善くする

にこにこした、

たのしい顔つきが幸福を与える

きれいな心の人にはまるで太陽の光や青空を運んでくるような人です。その人の行く所ゆに何となくあたたかみやさしてくるものなのです。(中略)

明るい生活の中にはすべての善いものが集ってくるのです。昔から「笑う門には福きた来る」という諺ことわざがありますが、にこにこ笑っていると、自然に善いことが集ってくるのです。人をたのしく愉快ゆかにしてあげることは美し

い行いであり善いことであります。その楽しく愉快にしてあげるには、色々の贈物おくりものをさしあげるのも、一つの方法でありますけれども、物をさしあげなくとも吾々われわれがにこにこしたのしい顔つきをして、たのしい心を他の人に移してやればそれが最も深切しんせつな、人に幸福を与える方法であります。

(新版『生活読本』135～136頁)

幸福とは心が楽しいことです

家の中に一人でも不機嫌な人がありますと、その家の人達の心全体が乱れてくるのです。そして家族は始終じつじゅう病

気をしたり、「面白くないことばかり起ってくるのです。

そんな家に住んでいる人は、お金が百万円つんであっても幸福だということはできません。幸福な生活とは心がたのしい生活です。家族互いにうれしそうな顔をしてにこにこせずにはいられない生活が幸福な生活です。

(新版『生活読本』136頁)

あなたの明るい顔は太陽の光のようなもの

うれしい顔をするには何の資本もありません。深切な目付きをするにも何の資本もいらぬのです。吾々は、この人をよるこぼしてあげたいとただ思うだけで深切な顔になれたり、愉快な微笑を顔に浮べたりできるのです。あなたの愉快な顔つきは曇った日にさしこんで来た太陽の光のようなものです。周囲の人が苦虫をかみつぶしたような顔をしていればいほど、あなたの明るい顔が必要なのです。どんな富や財産をもっているよりも明るい心をもっているものは、もっとも尊い宝をもつ

ているものだといわなければなりません。

(新版『生活読本』144頁)

子供は親に愛されることが一番の楽しみ

どなたでも子供を憎むという人はないのですが、子供を愛している表現が少ない時には本当に愛してくれてくれないのだという親に対する恨みがましい気持ちが出てくるものであります。(中略)子供というものは親に愛されることが、もう一番の楽しみなのです。親に愛されている子供は、親のためなら、親の喜ぶことなら、たとい火の中水の中に入っても、命を棄てても厭わぬという感激をもつのです。そういう親をもつ子は親に喜ばれるためにいくらでも善いことをいたします。ところが親が子を愛しているということを言葉にも表情にも表現しないであまり仕事が忙しいとか、何か自分にくしゃくしゃする事件があった時などに子供につっけんどんに当たる。それがいけないのです。愛は心のうちにもつて

いても表現してもらわなければ愛してもらったような気がしないのです。心の中に愛があっても、顔でしかめ面していると「どうもうちのお父さんは可愛い」とか「お母さんは叱ってばかりいる」とか思うようになるのです。これに反して言葉でも、形でも愛してやるというようにいたしますと、必ず子供は親に従順になってきます。親がこうなつてほしいというように必ず子供から進んでそうなつてくれるのです。

（『生命の實相』頭注版第40巻37～38頁）

子供の善さや美点を強調しましょう

如何に潜在的に存在していようと、認めなければそれが存在していることが現実に見えて来ないのである。如何に多くの宝が庫の中に蔵われていようととも燈火がそこになければその宝は無いに等しい。だから諸君よ、諸君の子供にそして諸君の教え子に宿つていところの「神性」（神からの大遺伝）を認めることから始め

よ。（中略）

諸君よ、先ず子供に教えよ。彼自身の生命の尊さを。

人間の生命の尊さを　そこには無限力の神が宿つ

ていることを。展げば無限の力を発し、無限の天才をあ

らわし、彼自身の為のみならず、人類全体の輝きとなる

ものが彼自身の内に在ることを教えよ。彼をして彼が地

上に生命を受けて来たのは、自分自身のためのみでない

こと。人類全体の輝きを増し、人類全体の幸福を増すた

めに神が偉大な使命を彼に与えて来たのであることを教

えよ。この自覚こそ、最初の最も根本的な自覚であつて、

この自覚が幼児に植えつけられたものは必ず横道に外れ

ないで、真に人類の公けな喜びのため何事かを奉仕しよ

うと喜び励む人になるのである。

常に子供を鞭撻して、彼の善さを力説せよ。彼の美点

を強調せよ、自分自身の有つ長所を自覚せしめよ。ここ

に子供を教養する極意があるのである。

（新編『生命の實相』第22巻170～174頁）